

寄稿

里山をひらく

岡山県赤磐市 中西 卓



先生の手を借りて初めての「のこぎり体験」



子供たちも里山で学ぶ木工教室の教材集め

木漏れ日が注ぎ、野草が可憐な花をつける、透きとおった小さな流れがある、こんな山にしたいとあかいわ美土里の和はとりくんでいます。かつての里山が住宅団地の造成にもなつて保健保安林に指定されながら手入れせずに放置されてきた市有地の荒れ山を子ども達が入つて遊べる山にしようと、昨年春に県と市に届け出ました。

と何十年前か前まで里山だった気配があり、更に踏みこんで標高差約70mの尾根に達しました。半年余りで3ルートの登り道とそれらの上部をつなぐ尾根路を開き、ひと際高い所で大きな岩に出会い磐山(いわやま)と名付ました。次の目標は、最近見つけた水が流れる4つ目のルート¹を尾根まで開くのと工悦邑から千光寺までの尾根路を全通して整備することです。更に尾根沿いの高木を整備すれば展望がきく里山ハイキングコースになります。磐山からの初日の出、総会後に満開のミツバツツジを愛でながらの昼食、春秋に森林インストラクターが導く自然観察会、スケッチ、木工教室など小学生も参加する様々な行事があります。

県内の森づくりシンポジウムに参加する一方、自らも学者や活動家を招き2回目のシンポジウムを11月に開きます。これまでに76種の樹木を確認しており、名札をつけ、写真付きのリストを作ります。このように野外と机上で、市民が森を学ぶ場を作ろうとしています。

去る8月25日に県主催の「森林・林業を考えるシンポジウム」が

ありましたが、基調講演とパネリス卜一人の論点が里山でした。中でも「幼児期に自然を体験させることが人格形成に欠かせない。青少年が非行・暴力に走るのは成長の過程で自然の原体験がないからだ」という話に感銘を受けました。私たちがとりくむ山の裾に幼稚園用地があります。どこか幼稚園・保育園でも、更に世代をこえて利用できる「森の学び舎」をと新しい夢ができました。

市の広報や地元紙で行事参加に呼びかけをしています。里山はさまざまで、それぞれの地の自然と社会の環境に適つた里山づくりがあると思います。以上は特別な例かもしれませんが、ご参考になれば幸いです。(終)

参考

- ・里山の所在地・赤磐市桜が丘東一丁目
- 他 稜線の東側は岡山市東区瀬戸町
- ・工悦邑^{こうえつむち}・陶芸などの芸術家数家族が住む山間集落

● 寄稿者プロフィール

「はなの村だより」編集担当伊藤の高校同窓生
「おかやまエネルギーの未来を考える会(エネミラ)」、「里山再生あかいわ美土里の和」、ほか多数の生活環境改善関係の活動に会員として参加、活躍中

● 寄稿者から一言

里山を思う人に薦めたいのは森を歩くこと。私の体験では札幌郊外の野幌森林公園、北大・苫小牧研究林の市民の森がすばらしい。岡山市内の操山という低山の国有林は里山のモデル。後楽園の借景で古墳が点在し、名刹曹源寺が麓にあるのも嬉しい。